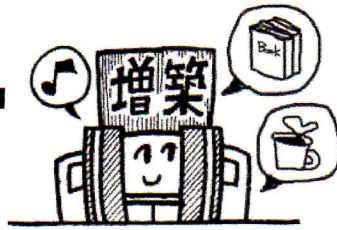


2018年もよろしくお願ひします。

市民センター (公民館・図書館)



市民と行政と専門家が
一緒に考え、
実現を目指す。

増改築がいよいよ動き始めました。

市民提案書のポイント

小さなまちのよさを生かした「まちづくり」を
“新しい市民センター”から!

- すべての市民に開かれた憩いの場
コミュニティ・スペースの新設
- 部屋数増、青少年の居場所づくり
人がつながる公民館
- ゆったり明るく利用しやすい
暮らしを豊かにする図書館
- 太陽光や地下水を有効利用
自然にも人にも優しい施設

築40年の市民センターは老朽化が進み、使いにくさやスペースの狭さが問題となっています。

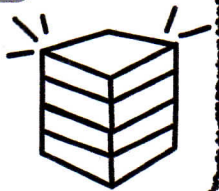
2013年に改修案が提示されましたが、市民の声が活かされているとは言えず、「増床を視野に入れた改築」を求める市民の声が高まり、市は改修計画を凍結。市民と行政が対等に計画をつくる「新しい市民協働」の取り組みとして、「市民センターを考える市民の会」がスタート。

2016年4月に「市民提案書」を提出しました。

「市民提案書」をもとに、日建設計コンストラクション・マネジメント(NCM)の5つの提案と市民の会案の計6つが提案されています。

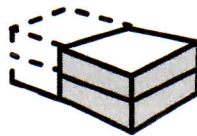
1. 新築案

現状を解体し
新築



2. 増築案 -1

現状を改修+
横増築



2. 増築案 -2

現状を改修+
縦の増築

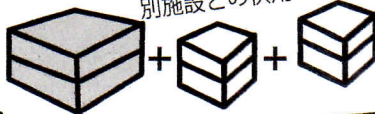
増築部分に
木材を採用する。



3. 分散案

4. 小面積案

現状を改修(増床なし)+
別施設との共用+分室



2-2-A案(市民の会案、裏面に解説)と
2-2-B案(NCM案)があります。

この案では、市民提案書を実現
できないと考えられます。

★市民の会ではこれからも、市民意見交換会や勉強会、木造建築の見学会などを計画中です。

市民の会のホームページで、これまでの経緯や各種資料がご覧になれます。

皆さまの声を
お聞かせください!



市民センター
を考える
市民の会
(第2ステージ)



詳細は市民の会のHPをご覧ください。
<http://www.komae-tokyo.org/shimin/>
✉ shimin@komae-tokyo.org
FAX(3430)1402

「市民の会」CLT活用の3階縦増築案（仮称「②-2-A」案）について

（目標）既存市民センター建物の上に、CLT・LVL・鉄骨の混構造による縦増築により、当会「市民提案書」の要望面積を満たし、なおかつ、耐久性40～60年を目指し市民文化の向上に貢献する。

「安くて早い」縦増築が可能と考えるポイント

1 「市民の会」縦増築案の耐震安全性が構造計算（保有水平耐力）試算で確認された

市民センターの増築には、「構造計算」による安全性の確認が不可欠です。最も精密に建物の強さを計算する「ルート3」の方法によって、保有水平耐力が十分にあることが確認されなければなりません（大地震のときに多少傾いて内装が壊れても潰れないことを確認するもの）。

市民の会の要望を盛り込んで提案した増築案（木・鉄骨による三階増築、基礎構造への補強なし）（「②-2-A」案）について、構造設計の専門家（國田健夫先生・カムイ建設設計事務所）が現存資料に基づいて計算された結果、保有水平耐力は必要保有水平耐力にたいし、X方向で「BF1=1.70、1F=1.86、2F=1.84」、Y方向で「BF1=1.72、1F=1.50、2F=1.49」となることがあきらかになりました。

2 「市民の会」縦増築案の具体的内容

①「市民の会」縦増築案の背景

「市民の会」縦増築案（「②-2-A」案）は、現在の市民センターの耐震診断結果および実際の建物の構造を見た専門家から、縦増築の可能性が十分にあることが指摘され検討が始まりました。専門家の協力を得て市民提案書の要望を満たすかたちでレイアウト図が作成され、これにもとづく構造計算の試算がおこなわれました。既存建物の「構造計算書」が破棄されていたことから困難がありましたが、検討が進められる中で、（a）柱が太いこと（1m×75cm角）、（b）使われているコンクリート強度が高いこと（ $F_c=28\text{N/mm}^2$ ）、（c）基礎地盤のレベルは最高の「砂礫 $N=50$ 」であることが判明し、上記「1」のように耐震安全性が確保されると考えられる縦増築案を提案することができました。

②既存建物の軽量化・バランスを良くする調整、木による軽質な増築部という特徴

また「市民の会」縦増築案には、現在屋上に設置されている防水塗装・パラペット（手すり壁）、一部の壁などを撤去し荷重の調整を図ること、そして増築部分には鉄骨とCLT（直交集成板）など木の素材を使うことで、軽量かつ強度が保たれる建物とすることを提案しています。

3 「市民提案書」要望を満たしながら、「安い、早い」増築が実現できる

日建設計コンストラクションマネジメント（NCM）報告書の縦増築「②-2-B」案（6400㎡、費用38億円、工期40カ月）と比べ、耐震補強工事（約6.9億円）が不要であり、既存部分の耐震補強・改修（25カ月）が大幅に縮小されるため、「安い」（低コスト）、「早い」（短工期）、省資源での施工が可能であり、一定程度「使いながら増改築」も可能と考えられます。「市民の会」提案の「②-2-A」案は7000㎡を確保しながら、費用20億円、工期10カ月で建設可能との専門家の見立てもあります。

- 「市民の会」提案の縦増築は構造的には「十分できる」ことが構造設計の専門家により示された。
- 行政に、この試算結果の検証を求めている。
- 実際に実現させるためには、追加調査をふくめ、今度は行政の発注による構造計算適合性判定で承認を得るための必要書類作成が求められる。